

## 「やかましいSPT」に思う

「なぞかけ」から今日は入ります。「期末テスト」とかけて、「花火大会」と解きます。その心は、「盛り上がりの後は、ゴミばかり」。そんなことがあってはなりませんね。あなたはどうか。このなぞかけがあてはまってしまいませんか。返ってきた期末テストは手元にありますか。どこにしまったのか、どこに挟んだのかわからない人は、この先も恐らく再び広げることにはないでしょう。そうなれば、同じような問題が出された時、同じ間違いを繰り返すことでしよう。

今朝、ある学級の黒板に次のメッセージが書かれました。「昨日のSPT、やかましいなーと思っていたら呼びかけられる人がいました。」

呼びかける人がいた事実はいやらしいことのように思えますが、正直言って私は「これでは行き当たりばったりの勉強を積み重ねるだけで力はつかない。レベルが低いなあ」と思いました。自分の弱点に迫ることができないも者は徒労を重ねるだけ。これは勉強に限らず、スポーツにおいても同じです。やった割には成果が出ない、いやいや、やるだけいいかもしませんね。しかし、どうせやるなら、それに見合った成果がほしいと思うのは私だけでしょうか。

SPTは、一日の授業の自分の理解を冷静に振り返り、わからないこと、できなかつたことにできるだけ早く再挑戦して「解き直し」を実践するための計画の時間です。自分を分析して自分で考えるわけですので、一人になる時間だと言えるでしょう。それに耐えられない自分であれば、恐らく力がつくどころか、増えていく学習内容についていけず、点数は下降の一途をたどるかもしれませぬ。

三十七年間教師をやっていますが、たった一人だけ卒業前に百点以上の伸びを実現させた生徒がいました。塾にもいかず、自分の力だけでどんどんと点数を伸ばしました。最低点が218点。卒業前には348点まで伸びました。

この生徒は、自分の弱点から決して逃げませんでした。教科の得手不得手がはつきりしている生徒でしたが、得手には手を抜かず、不得手には思い切って飛び込んでいきました。点数を伸ばすといっても本気で取り組まないと難しいですよ。それをやるための第一歩がSPTなのです。問題を先送りしても、何も解決しません。

あなたの身近にいる職員は、効果的な学習の仕方を指導していますか。「○時間勉強をやるように」「毎日△ページ取り組もう」などと学習量で指導することはナンセンス。大切なのは効果の上がる学習です。「この先生が教えてくれたやり方、いいですよ！」という感触があった人、ぜひ教えてくださいなね。私も知りたいからね！

(六月十六日 記)